

第9章 調査研究

9-1 調査研究の方針

【調査研究の基本的な方向性（第5章より抜粋）】

史跡英彦山のさらなる価値向上のため、史跡の価値やこれを構成する要素に係る調査研究、保存活用の方法や技術に係る調査研究の推進を目指す。

調査研究の基本的な方向性の実現に向けて、以下の方針のもと史跡英彦山の調査研究に取り組む。

方針1 史跡の調査研究を推進する

史跡の保存を堅実に進めるため、史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の現状を詳細に把握する。また、英彦山総合調査での成果を踏まえつつ、更なる史跡の実態解明に向けた調査を進めるとともに、史跡の追加指定を念頭に史跡指定地周辺の調査研究を進める。

調査研究の成果は、持続可能な保存活用に向けた基礎情報として整理し、情報のデータベース化を図る。なお、整理した情報は公開に努める。

方針2 保存活用に係る技術的知見の調査研究を推進する

史跡の保存活用をより推進力をもって進めるため、保存管理、活用、整備に係る技術の調査研究を進める。調査研究にあたっては、起伏が激しく、広大な範囲等の特性を踏まえ、維持管理しやすい対策の調査研究を進める。

9-2 調査研究の方法

調査研究の方針を推進する方法を示す。

(1) 史跡の調査研究の方法

1) 考古調査

英彦山総合調査において、伝承と遺跡相互の年代観が錯綜していることが指摘されており、今後は史料記録と遺構・遺物の年代幅の照合による歴史調査を進める。調査にあたっては、朝鮮半島や中国等に起源を持つ遺物も発掘されていることから、これらの関連を検討する調査研究も求められ、他の関連教育機関等と連携しながら進める。

2) 歴史資料・民俗資料調査

英彦山総合調査においては、由緒や縁起にかかわる史料等の調査が進められたが、各坊家の資料については概要調査に留まっており、他の関連教育機関等と連携しながら詳細な調査を進める。

3) 美術工芸品調査

英彦山総合調査においては、松養坊を対象に現存する彫刻・絵画等の文化財の悉皆的な調査が初めて進められたものの、他の宿坊では調査が進められていない。他の関連教育機関等と連携しながら、未調査の宿坊や山内、山外の作例の調査を進める。

4) 庭園調査

英彦山内の宿坊には未指定文化財の庭園遺構が手付かずのまま、自然環境の中で放置された状態にあり、実態の把握ができていない。現在組織している調査委員会を母体として、調査研究を継続的に進める。

5) 自然史、動植物・昆虫等調査

英彦山総合調査で調査研究が進められなかった英彦山の自然史や、山内に生息する動物や貴重な昆虫、植物等の調査対象があることから、他の関連教育機関等と連携しながら調査研究を進める。

(2) 保存活用に係る技術的知見の調査研究の方法

英彦山内に存在する史跡英彦山の価値を構成する主要な要素は過酷な自然環境の中で毀損が進行しているものの、これら要素の修理に係る技術や、広大な範囲において災害や人害等から構成要素を守り、継続的に維持管理するための技術的知見は乏しい状況にある。また、広大な範囲にわたる遺跡を分かりやすく伝えるための技術的知見も乏しい状況にある。

このことから、新たな技術の採用も含め、保存活用に係る技術的知見の調査研究を進める。